

# 六月の園藝

東京女高師教授 有川ヒサエ

## ○挿木法について

草や木の枝、時には葉を、土中に挿して、根を出させることを、挿木といふ。

大抵の植物は、挿木によつてよく根が出るもので、根の出ぬのは却つて、例外のものと云つてよい。

挿木の時期について、大抵のものは、梅雨の間が、空中に濕氣が多くて、乾燥が少く、根の出ることが容易である。又桃とか、櫻といふやうな、落葉性のものは秋から冬にかけて、枝上に葉のない芽のかたい間が、よろしいやうである。しかし

一枝からでも、やりやうによつては、隨分多くの挿穂がとれる一般に、株分等よりも、一時に澤山に蓄殖することが出来る。

生垣に作るなり、或は花壇の縁植<sup>ふちう</sup>にするなり、

一枝からでも、やりやうによつては、隨分多く挿木の方法は至つて容易であつて、始めて行つても、よく着くところから、自分には何か特殊の天才もあるかのやうに、我れ知らず得意になることもある。

當を注意すれば、よろしいのである。

方法は、先づナイフを充分磨いでよく切れるやうにしておき、次に、枝を準備する。枝は成る可く本年生の新らしいのが、根が出やすいけれど、餘り新しく、軟かすぎては、切口から腐敗し易い恐れがある。故に、新らしい枝で、相當實のいつて居るところにすればよろしい。例へば菊の挿木でも枝の極く先端の、心芽のあたりなどは、腐つたり、乾いたりして、物にならぬがまゝある。數節下つてからなら、相當に實がいつて居つて、丈夫である。

生垣によく用ふる、カナメ、マサキ、のやうなものや、花壇の縁植フチウエにする、クサツゲ、ハクチャウゲのやうな、中でも根の出やすいものは、年中いつでも、亦、何れの部分を、切つて挿してもよく着く、故に、年に何回でも枝が伸び次第、切つては挿し、切つては挿すると、僅かの間で目的の用を充すことが出来る。又切ることによつて、

生垣や、縁植フチウエも、枝がこんで來て、形が出來て来る。  
枝の切り方は、成るべく、節の直下を、スラリと斜めに、即ち切口面が廣くなるやうに且つ滑かに切るとよい。

挿す場所は、普通の庭木類なら、餘り陽あたりのひどくない、樹の下や、塀の際などに、床を作り、砂を三四分も混せて、此處に、三四節ある枝の半ば以上も土中にあるやうに挿して、時々水をやればよい、陽があたる處なら、葭簾を、一枚通りもかけて置きたい。

少しのものなら、鉢や、箱に挿してもよい。さうして、腐れやすくて根の出憎いものほど、砂を多くする。挿したら、日中だけは新聞紙でも被ふて置くとよい。

大抵のものは、枝を切つて挿すまでは、せいぜい乾がぬやうに注意すべきであるが、特に仙人掌サボテンとか、ゼラニアムのやうな、多肉性のものは、多

少其儘置いて、乾してから挿すと、却つて腐敗が少くて根が出易い。

挿木後根の出る迄は、何れの場合でも、強い陽にあてぬやうに、且つ水氣がきれぬやうに、することが、何よりの注意である。根の出ぬうちに、肥料など施す人はないが、時としては、根より先

きに、枝上の芽がいきいきと伸びて來るのでこれにだまされることがある。これは根よりもなく、切口より水を吸ひ上げ、それで芽が伸びたので、かうなると、枝が一體に乾き易くなるから、あまり好ましい状態ではない。

根が出たらば、床のものなら、廣く植え出すし、鉢のものなら、一本宛、培養土を以て鉢に植え取らねばならぬ。

何しろ、至極らくな、しかもたのしみな、幼稚園の小供にも六つかしくない仕事であるから、夫れ夫れに小さな土鉢でも、なければ、サバへの殻でも、辨當の折箱でも、かういふものを一つ宛興

へ、庭の植物を何でも手當り次第に、切つて挿させることよ。小供は毎日、心配して鉢の中をのぞいて居るうちに、根の出やすいもの、出憎いものも觀わけやうし、赤白い軟い小さな根か、房のやうになつて、切口や節の處から、ボツリボツリ出て來る様も觀出して歡ふてあらう。

### ● 雜報

#### ○第二回全國幼稚園關係者大會

先に東京市に於て開かれたる第一回全國幼稚園關係者大會の折、豫定されたる第二回の同會大會は愈々來る十月、大阪市に於て開催さるゝ事となりたり、其規定左の如し。

二、期日 大正八年十月十七日ヨリ三日間  
一、場所 大阪市